
盗賊は世界を救います

縁之舍院

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

盗賊は世界を救います

【Zコード】

Z0745BA

【作者名】

緑之舎院

【あらすじ】

勇者に頼れず、悪におびえる人々。手を差し伸べたのは一人の盗賊だった。

勇者を正し、悪を討つ。
秘宝、利益は後回し。

そんな変わり者の盗賊が世界を旅する単純なお話。

この世界はゲームと云つて大きな宇宙のもとに成り立つてゐる。ゲームにはいくつかの惑星がある。冒険の得意な者の多いRPG（正式名称：ロールプレイング）、身体能力に秀でた者の住むAC^{ヨン}、人々が競技で点数を競うSPT（SPT）：etc互いの星は距離が近いこともあるてか、他星からの移民を受け入れてゐるがどの星で誰が成功するかなど誰にも全く分からぬ。どの星でも名誉を手にするものもいれば、生まれた星で着実に成果を挙げ花を咲かす者もいる。一方で、全く誰にも知られずに一族が途絶えることも多々ある。

この世はどれだけ自分の名前を人々に知つてもうかが全てなのだ、どれだけ素晴らしい能力^{ステータス}を持つても誰も知らなければそれまで…なのである。

今回の物語^{ストーリー}の舞台はRPGとなつております、それでは“スイッチオン”

「…」

目を覚ますと、俺は見知らぬ草原に倒れていた。

体を起こし辺りを見渡す、見覚えがあるような氣もある。と言つても目印になるようなものが無いため、どこまで見てもただ緑の絨毯が広がっているだけだ。

「ここはどこだ…、俺の名前は…」

“神斬^{かみきり}聖^{セイ}” 親譲りの緑の瞳に黒髪。…うん、その辺りは思い出せる。

思い出せないのは、俺が何でこんなところにいるかだな…

体力が空ぜうになった記憶は無い、ダンジョンに入つてやられた記憶も無い。ただ俺は宿で眠つただけのはずだ。そういえば、いつも下げる小さなバッグが無い。ベルトにつけるタイプだから寝るときはいつも外してる、それにマントとバンダナも寝るときに外したまま……やつぱり俺は宿で寝てたつことなのか……？

「聖……」

聞きなれた声がした。旅立つてまもなく出会つた、一人目の仲間だ。

「聖……もうどこまで行つたんだろう」

空からの声、上まきを見ると真姫が空を移動しながら叫んでいた。

「真姫さん、蘭城らんじょう真姫さん」

適当に聞こえるくらいの声で呼んでみた。こひらを向くことなく飛んでいく真姫。

「もしも~し」

「……」

「真姫、おいで聞いてんのか！」

怒鳴つてしまつた……むしろ言ふだに近づくこの声量で。

「おっ、聖発見！」

真姫はゆっくり地面に降りてきた。そして、ひからに駆け寄つてくる。

「探したよ聖、こんな所にいたんだね」

どうやら俺は、真姫たちとはぐれてしまつていたらしく。寝ていたはずのに……

「ここに何か思い入れとかあるの？」

「何でだよ？」

真姫が唐突に聞いてきた。多分昨日たゞり着いた村の近くの草原だろうと思う。けど、この辺は昔一度来た位で思い入れなんてものある訳が無い。

「何でつて……、今朝の出来事忘れたの？」

「今朝？」

そついえぱドでかい爆発音を聞いたよつな氣が、そしたら何故か

空中に投げ出されて…

「…何かの爆発に巻き込まれた氣がする」

「それは…」

なんだか思い出してきた…。まだ村まで歩いた疲れの取れていな
い俺は、珍しく日が昇るまで眠っていた。そしたら…そだあの“
職人様”が！

「聖さん！」

そうだ、ティミラにやられたんだ。

「見つかってよかったです、ご迷惑をおかけしました」

ティミラは頭を下げ、謝罪の態度。

「今日は何をしてたんだ？」

先に謝られたため攻める事も出来なかつたので、俺はことの原因
を聞いてみた。

「今日は転移薬の調合をしていたんですけど、それで成功したんですけど…」

「けど？」

「本人がどこに行きたいかちゃんと頭の中で思つていないと、上手
く転移できないらしくて」

「それで俺はこんな所に飛ばされた訳か…」

大体分かつた。全面的にこいつが悪い、なので鉄拳制裁しあうと
したが

「ほらほら、朝ごはんまだなんだから戻る」

知つてか知らずかの真姫の行動によつてティミラは俺からダメー
ジをもらつことなく、宿に戻ることとなつた。

宿までそれほどの距離だつたわけではないが寝起き、且つ朝食前
といつともあつて歩は当然遅くなり、それなりに時間がかかつて
しまつた。

その間に今朝の事を聞き整理した、どうやらやうらの専属職人のティミラさんは朝から熱心なことにお仕事・もとい実験・を行つていらつしゃつたらしい。

その成果が俺の転移なのだ。ひょっとすると宿自体にも被害が出たかと思ったがそこは天才職人様、爆発そのものには破壊力が無いように設計していたそうだ。何故それが出来て事故が回避できないんだ…

現在まで俺自身、ほとんどティミラの作品を使用していない。だが、やはり才能というもののそれなりに感じる。

もともとRPGの住人ではなかつたティミラを連れて来るのには、それなりに骨が折れた。でも、それだけの労働の価値は確実にあると思った。

物を作る腕はもちろんのこと、雰囲気や態度も悪くない。戦闘力は無いが、それは求めていないので関係ない。

ただ一つ、作業中や戦闘中以外の“普通の時間”が安定感にかかる。

言つてもどうにもならないから言わないけど。

何で考えながら喋つてる間に村についていた。

始まりの村・サルフ

緑豊かな自然の中にある小さな村。

この何も無い小さな村が、始まりの村と呼ばれるのには理由があった。

それはここからある勇者の旅が始まったからである。

その勇者は、腐りきつた一つの協会を正そうとした。しかし、それが叶うことは無かつた。

“彼”が勇者でなければ、歴史は違っていたかもしれない…

村に着くと、俺たちはすぐに宿に戻った。

俺達の寝ていた部屋を見てみたが、本当に傷一つ無い。

周りの人間達は、俺たちを見てなにやらコソコソと話していたが無視。

「別に実害を出したわけじゃない、気にすんな」

何となく、ティミラにそう言つておいた。

店主の業務的挨拶を背後に受けつつ、食事の置いてある机を囲み、腰を下ろす。

パンとスープ、焼いた卵の朝食。蒸氣と共にスープの匂いが空腹を刺激する。

これはこの村のものではなく、ティミラの料理だ。

“こいつに出来ない”とは今までの旅路でほとんど見たことが無い。初めてのことでもそれなりにやつてしまつし、何度かやれば自分の中にてしまつ、職人たる所以なのかもしれない。

料理を食べ始めるとしばしの沈黙、しばらくして真姫が口を開く。

「この村も平和そうに見えて、やはり“あれ”の影響があるみたい

ね

あれとは「」の窓からも見えていた勇者協会のことだ。

「そりゃ そりだろ、この世界の勇者の地位は確立されちまつてゐるわ
けだし」

うか。

この星の人々が悪の力の前に涙はなかつたのは、
とある勇者のお陰だ。しかし、それも今は昔か…

「規模が小さいとはいえたの外にあの協会、しかも勇者が旅の仲間にいない一団が騒ぎを起こしたとなれば…当然村の人間としては関わりたくないだろうな」

「早く」レジを出た方が良いんじゃ……

ば今より職人らしくなんのに…

「まだ着いたばかりで目的が達成できていない、それにあんな落ちぶれた勇者どもが何人来ようが俺が倒してやるさ…復讐しようなんて気持ちも起こらないくらいにな」

俺たちが村々を回っているのにはもちろん理由がある。一つとしては協会を正すこと。これが最終目標であり、最重要事項なのだが、現在の最優先事項ではない。

「——の理由が勇者を旅の仲間に入れること

今までいろんな勇者に会って見たが、仲間のいない勇者は少なかつた。いたとしても、そいつには一人が向いているだろうと思う奴ばかりだった。

結果として才能ある若者を探すことになった、それも旅に出たことのないような素人が望ましい。

そんな人間は当たり前のごとく簡単に見つからず、すでに訪れた町村は二桁になろうとしていた。

しかしこのメンバーは端から見る何なんだろう…
マントにバンダナの盗賊、変な服装の剣を持たない魔法剣士、で

かいカバンを引かず眼鏡の少女…ただの下つ端以上の何者でもない気がする。

「じゃあそろ行きますか」

意味の無い試行を真姫の声が終させた、そして『…………』何も変わらないよ』と続ける。

「そりだな

俺は一度部屋に戻りバンダナとマントを装着した。真姫はどこで買った学生服（茶のブレザーにチェックのスカート）、ティミリは白衣、まあいつもの服装だ。

そして俺たちは村を歩き始めた。そこで、彼女と出会った。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0745ba/>

盗賊は世界を救います

2012年1月10日23時45分発行